

# 大阪損保革新懇ニュース

大阪損保革新懇事務局  
 大阪市中央区道修町3-3-10  
 大阪屋道修町ビル3F  
 06-6232-1095

## いま「変革」の時代 あなたが動けば 職場も日本も変えられる！

〈第15回総会・記念講演に124名〉

11月8日(木)大阪府商工会館において大阪損保革新懇第15回総会・講演会を開催し124名が参加しました。志賀守孝事務局の司会で始まり、野村英隆代表世話人の開会挨拶のあと、記念講演として伊藤千尋さん(朝日新聞記者・ジャーナリスト)が「いま『変革』の時代、あなたが動けば、職場も日本も変えられる」と題し講演しました。総会議事では各種報告と新年度世話人提案の後、総会アピール「今までの歩みに確信もち、結成15年目の活動に奮闘しよう」を提案し、全員の大きな拍手で採択しました。総会后、恒例の居酒屋「木温(こはる)」を借り切って講師の伊藤千尋さんも出席されての懇親会に70名が参加。職場の枠をこえてなごやかに歓談しました。

ジャーナリスト  
 朝日新聞記者

伊藤千尋さん

〔記念講演要旨〕

原発なんていない

日本は地熱発電で原発20基分まかなえる

みなさん、今晚は。私は今まで70ヶ国の取材をしてきましたが、世界の眼から見ると日本は異常な国と映っています。国民がこれほどストレスを抱えて、息苦しい国はありません。しかし、今の日本人はそれに気づいていない。

ヨーロッパ諸国から福島に視察に来た人たちが「原発であれだけの事故を起こしながら、再稼働するなんて理解できない」「なぜ日本は方針を変えないのか」と口ぐちに言いました。なぜそうなるのか。それは日本では安全神話は崩れたが「原発がなければ、日本はやっていけない」という神話が残っているからです。「原発などいない」ということを実例で示せば、神話を崩すことはできるのです。

アイスランドの空港近くに世界最大の露天風呂があります。見渡す限り湖のような露天風呂ですが、地熱発電所を造ったついでにできたものです。発電機は日本製です。現在、日本では地熱発電は電気供給量の占める割合は0.3%。ところが、政府の研究機関の公表で、地熱発電で原発20基



記念講演・講師の伊藤千尋さん

分の電気が供給できるのです。

日本は温泉が多い。地熱発電を最もやりやすい国で、しかも地熱発電技術大国です。にもかかわらず、政府が発電は原発でやるという方針を決め、地熱発電の開発をやめてしまった。明らかに人災です。

ドイツは福島の事故後、原発を即時に廃止を決めました。メルケル首相は「ドイツは世界の再生可能エネルギーの最先端に行く」と言いました。ドイツは菜の花油で自動車を走らすことを開発してきました。自然エネルギーをすすめることによって、2000年からの10年間で37万人の新たな雇用が生まれました。

(P・2へつづく)

(P・1からのつづき)

**オーストリア**は「原発を造らない、造っても使わない」と憲法で決めています。原子力発電所は英語では「ニュークリア・パワープラント」です。「ニュークリア・ウェポン」が核兵器ですから本来「核発電所」と訳すべきですが、日本では「核」ではなく「原子力」発電所と言い換えています。オーストリアでは国民投票の結果、使わないという人が過半数を超えました。いま、原発跡は太陽光パネルを張って太陽光発電所になっています。

**スイス**は原子力発電が全体の39%を占めていましたが、福島事故以後原発をやめると決めました。スイスの「経済界」が原発は経済的に見合わないと言いだしたからです。日本の財界と大きな違いです。

**フランス**は「原発が多くあるではないか」という人がいます。フランスは平野が多く、日本のように水が豊富でもない。北ヨーロッパのように風も強くなく、太陽光もそれほど強くない。そこで原発に頼っているのですが、日本と異なるのは地震がないことです。

東京大学の地震研究所が作った世界地図を見るとどこで地震が起きやすいかという赤い印が日本には全国につけられているのに対し、フランスは赤い印が一つもない。地震・津波がないから、原発を造っても恐れることはあまりないのです。そのフランスも社会党政権となって原発縮小に進み始めました。

**ヨーロッパ**はすべて自然エネルギーに向かっていきます。アフリカのサハラ砂漠に太陽光パネルを並べて海底ケーブルでヨーロッパに電気を持っていくという壮大な計画までたてられています。**フィリピン**のアキノ大統領はチェルノブイリ事故4日後、原発を造ったが、使わないことに決めました。原発をやめて地熱発電をやっています。フィリピンは地熱発電世界第二位ですが、機械はすべて日本製です。



このように風力発電・太陽光発電・地熱発電は24時間365日勝手に発電します。燃料代はタダです。日本はすべてに恵まれています。「原発なんていない」のです。

## 世界から米軍基地も消えている

**フィリピン**は原発だけでなく、米軍基地もなくなりました。1991年のピナツボ火山噴火の際に、アメリカ軍は逃げてくる人を基地から締め出した。「災害のときにフィリピン国民を守らない米軍に基地を貸すのをやめよう」というのが大きな世論になりました。

当時、4万2千人の基地労働者がいましたが、「基地跡をどう開発すればいいか」という意見を募り、採用された案に基づいた結果、この地域に5年後6万7千人、現在10万人の労働者がいます。

**南米のエクアドル**が2009年米軍基地を追い出しています。大統領の「憲法に外国の基地は置かない」との提案が、国民投票で圧倒的多数で成立したのです。ほかにも新しい条項を入れました。

「我が国は平和国家である。我が国は国際的な紛争の平和的解決を支持する。その解決のために武力による威嚇、または武力の行使はこれを認めない」と。なんと、日本国憲法そのものです。

## 世界も日本も変わり始めている 市民の力が社会を変える

ブッシュ大統領時代、アメリカは金持ちには天国、貧乏人には地獄、金がすべてという国でした。さらに9・11以降は戦争一色となりました。ブッシュは、「戦争する権限を大統領に一任する」という法案をだしました。その法案に対して、下院でたった一人反対した議員、黒人の女性議員バーバラ・リーがいました。「いまは非常時だから、ブッシュに団結しよう、星条旗に団結しよう」という時代に反対したのです。

彼女は様々なバッシングを受けましたが、逃げも隠れもせず、なぜ自分が反対したのかを説明する集会をもちました。彼女は次のように述べました。「アメリカの憲法を最初から読みなおした。議員、議会には大統領や行政が変なことをしないように監視する役割がある」「アメリカはベトナム戦争時、トンキン湾事件をみずから作りだし、国民をだまして戦争に突入していった。

いまこそ、このような法案に賛成してはいけない」。

(P・3へつづく)

(P・2からのつづき)

この説明に集会に参加した全員が拍手しました。改選時期が来て、立候補すらも難しいと思われた彼女が圧勝しました。彼女自身がアメリカを変えたのです。人間いかにまわりから叩かれても、本当に自分に自信を持っていれば、貫くことができるという教訓です。

**アメリカ**も変わり始めました。ウォール街の占拠運動についてはじめマスコミは無視していました。しかし、その後どんどん人数が増えてきた。国民各層が参加してきた。すると貧しい人がちゃんと生きていけるようにするのが、国の役割だとマスコミが変わってきました。

その流れがオバマ支持の流れになりました。ベルリン崩壊が起こったのも市民デモからです。10万人を超えたときに政府が放っておけなくなります。マスコミも変わります。そうすれば市民の意識が変わっていくのです。

日本は変わらないと思っていましたが、日本も変わってきました。金曜デモがとうとう10万人集会までになった。10万人集会でなにが変わったか。マスコミが変わった、取り上げざるを得なくなりました。市民運動がマスコミを変えたのです。

ようやく、日本でもおかしいと思ったら人々が街中に出て来るようになりました。こういう流れがでてきました。その前の流れは「9条の会」、その前は「革新懇」です。人々が今の政治をほうっておけない、自分たちでなにかやりたい、やるしかない。こういうところから行動していくという流れが生まれてきています。

金曜デモだけでなく、今、日本に新しい動きがあります。先日の岐阜県の母親大会では若い母親

が多いのに驚きました。福井県の原発で事故が起こった時のことを想定して、風船を飛ばして検証しました。そうしたら、岐阜県に被害がかかることが分かり、若い母親の意識が変わったのです。こういう運動を全国でやっていけば、日本は変わります。私たち自身が変えていこうとしなければ、この国は変わりません。

最後に、日本を変えた例として熊本の水俣の例があります。ヘドロの海と言われた海が、今エメラルドの海に変わりました。市職員の吉本さんが被害者を訪ねて、「愚痴を自治に変えよう」、「無いものねだりからは何も生まれない、それよりも在るもの探しをしよう」と訴え、市役所を変えていきました。そうしたら、市民も変わっていきました。水俣の中学生が修学旅行先で「汚い」と言われたことをきっかけにして、「水俣を変えるのは私たち市民しかいない」と悟りました。2005年、水俣市は日本一の環境都市となりました。

**一人で世界を変えることはできないが、一人からしか世界は変わらない**

意識をもてば町を変えることができる。町を変えることができるなら、国を変えることができる。私たちにはその時間がある、力がある。子供たちに誇れる国を残していこうではないか。それがあの東日本大震災、福島で事故で生き残っている私たちのやるべきことです。一人で世界を変えることはできないが、一人からしか世界は変わらない。お互いに頑張りましょう。ありがとうございました。

(文責事務局)





## 大阪損保革新懇講演会・今日の雇用問題を考える 「企業の社会的責任（CSR）と労働問題」

今、日本中で巻き起こっている電気産業を中心に起こっている大リストラ。損保産業でも例外ではありません。世話人の松浦章氏が、その背景や対応策をズバリ語ります。皆で一緒に考え行動する講演会です。特に現役の会員の皆様の参加を呼びかけます。

2月5日（水）PM6：30～ アイクルの部屋に

講師：松浦章さん（世話人・兵庫県立大学大学院博士後期課程）

会費：500円 講演会終了後交流会を行います（別途1500円）

## 拡大世話人会・新年会

日時：2013年1月17日(木)PM6:30～ アイクルの部屋にて 会費：2000円 鍋料理を予定

会員の皆様の参加を歓迎します。